

第 17 回 中山間地域振興特別委員会

日時：令和 2 年 11 月 26 日 (木)
10 時 分 ～ 時 分
場所：第 4 委員会室

- 【出席者】 田畑委員長 布施副委員長
川上委員 柳楽委員 野藤委員 上野委員 飛野委員 永見委員
- 【議長団】
- 【委員外議員】
- 【執行部】
- 【事務局】 古森局長 大下書記
-

議 題

- 1 テーマ 4「中山間地における安全・安心対策」について（意見交換）

- 2 その他

【参考】

テーマ 4「中山間地における安全・安心対策」について

- (1) 災害時の相互扶助機能の低下、防犯・防災への不安
- (2) 高齢者世帯・独居者の見守り・安否確認体制
- (3) 避難場所の確保
- (4) 落石防止、カーブミラー、河川や砂防ダムの土砂等の撤去

- 3 その他

○次回開催 月 日 () 時 分 第 4 委員会室

テーマ4「中山間地における安全・安心対策」の課題と対策

	川上委員	柳楽委員	野藤委員	上野委員	飛野委員	布施副委員長	永見委員	田畑委員長
(1) 災害時の相互扶助機能の低下、防犯・防災への不安	<p>①【課題】 地域見守り組織の強化</p> <p>【提言】 ・「ながら見守り」の理解を求める機会を創る ・コミセン化の機会を活用して全地域に組織化を図る ・道路パトを安全安心パトロールとして再構築する ・パト車ヘドラレコを装備し、記録を残す（記録は不明者や不審者対策に活用）</p>	<p>①【課題】 災害時のみならず、高齢者、障がい者、子どもなどの見守りも重要である。個人情報保護の観点から、要支援者の情報でさえ限られた人にしか提供できない状態になっている。</p> <p>【対策】 町内会などの小さな単位で、個人情報の共有を理解してもらい、要支援者の担当を明確にしておくことが必要である。（担当は複数決めておく）また、情報共有のために住民名簿を作成し、地域拠点でも保管することが望まれる。</p>	<p>【課題】 情報不足に対する不安</p> <p>【対策】 インフラ整備による通信速度の向上、新たな戸別機器の選定、配置</p>	<p>【対策】 多くの住民が協力して被害を防ぐための自主防災組織、高齢化弱体化した地域社会（町内会）に機能を持たせようとしてもうまくいかないのでは、まちづくりセンターの中に自主防災組織の部会を作り、それぞれの地域の見守り、安否確認など情報連絡体制作りを全市に広げる。</p>	<p>①【課題】 自主防災組織は大事だ。未設立地区対策</p> <p>【提言】 未設立地区にはそれなりの訳がある。自主防災組織の定義は無いと思う。その地域、地域に合った簡易な組織が良い。まずは、設立の手助けを推進すべきだ。</p>	<p>【対策】</p> <p>①逃げ遅れ0を掲げ、気象対策として「我が家のマイタイムライン」作成を努力義務にする（自助）、周辺の方に避難先を普段から話しておく。お互いの確認（共助）。高齢者や独居老人、障がい者（要支援者名簿）避難先での確認（公助）。</p> <p>②家で安全に避難できる環境点検の実施（自宅を安全な避難場所にする）。家具転倒防止器具やツッパリ棒購入時の助成。</p>	<p>①【課題】 自主防災組織の設立</p> <p>【対策】 防犯・防災の危険個所の洗い出し。</p>	<p>①【課題】 市内全地域への自主防災知識の設立</p> <p>【対策】 避難所・避難経路の確認</p>
		<p>②【課題】 特殊詐欺については、各種メディアで報道されていても被害がなくなる。</p> <p>【対策】 市内はもちろん、近隣市町等で特殊詐欺事案が発生した場合の市民周知のために、防災防犯メールの登録推進強化と、防災行政無線での呼びかけも有効だと考える。</p>			<p>②【課題】 災害時、消防団員の立ち位置の明確化</p> <p>【提言】 地域の高齢化が進む中、消防団員は地域の唯一若くて元気な頼れる存在だ。地元の災害時消防団員の立ち位置を明確化にし、地域の自主防災組織のリーダーとして明記すべきだ。</p>	<p>③災害によっては長期避難滞在が予想されるので、避難生活編のケアプランをつくる。</p> <p>④普段から非難をする道を兼ねて、自分の避難先まで散歩する（自分なりにチェックする。日中・夜間）→自治会に広げる（みんなで避難所散歩）</p>		
		<p>③【課題】 災害発生時には、まず自分がどう行動するか理解しておくことが重要である。平時から身を守る対策をしておくことも必要だが、方法が分からない人もたくさんいる。</p> <p>【対策】 マイタイムラインなど、個人や家族の避難計画を作成の推進を図る。また、地震に備えて家具等の固定などの減災対策や、災害備蓄品の必要性を周知する。</p>					<p>⑤自治会や町内会を通じて必須項目として年1～2回防災訓練か避難訓練を入れる。</p> <p>⑥災害用伝言ダイヤル（171）の活用を</p>	

テーマ4「中山間地における安全・安心対策」の課題と対策

	川上委員	柳楽委員	野藤委員	上野委員	飛野委員	布施副委員長	永見委員	田畑委員長
(2) 高齢者世帯・独居者の見守り・安否確認体制	①【課題】地域見守り組織の強化 【提言】・道路パトロールの機会活用（見守り組織とのコラボ）	①【課題】日中は現役世代が地域に少ない。 【対策】地域を回る頻度が高い事業者による、緩やかな見守り体制の拡大・強化。	①課題：(1)に通じる	【対策】まちづくりセンター・自主防災組織を通じて地区単位で独居世帯数など把握し計画書作成と見守りマップ作成など全市に広げる。	①【課題】連絡体制網の確立 【提言】平時は問題ないが、災害時や急病時やケガ時、連絡体制網が整備されていない時、近隣で混乱が起こる。身内、親戚等連絡しなければならないキーマンに繋がらないからだ。個人情報も重視しながら、指針を示すべきだ。	【対策】 ①緊急通報装置「早助（サスケ）」設置の推奨	①【課題】地域まちづくり委員会の町内会別、高齢独居者の把握 【対策】町内会の中で安否確認体制を設ける。	【課題・対策】自主防災組織で対応
		② (1)の①と同様。(1)と(2)は項目を一緒にしてはどうかと思います。				【対策】 ②災害時でも安否確認でも使える無事カード、タオル（市独自で作成配布）、玄関扉・門柱に掲示		

テーマ4「中山間地における安全・安心対策」の課題と対策

	川上委員	柳楽委員	野藤委員	上野委員	飛野委員	布施副委員長	永見委員	田畑委員長
(3) 避難場所の確保	<p>①【課題】一時避難所の選定・確保</p> <p>【提言】・集落に集いの場を設ける（行きやすい、集まりやすい、つどえる場）</p> <p>・集い場へ若干の補助（場所、茶、お菓子）</p> <p>・安全安心パトによる状況（周辺状況）等の定期的な確認</p>	<p>①【課題】現在指定されている避難所の中には警戒区域に指定されているものがある。</p> <p>【対策】避難場所の見直しや、自宅内や周辺で安全に避難できる場所をそれぞれが確保しておくことも大事である。</p>	<p>【課題】地区別小範囲の計画</p> <p>【対策】災害別のマイタイムライン策定</p>	<p>【対策】まちづくりセンター・自主防災組織を通じて、避難場所や危険箇所など確認するとともに、山間部の集落など避難場所に行くことが危険な場合・自宅や近所、近くの集会所など災害を想定した訓練など、集落での話し合いをすることを全市に広げる。</p>	<p>【課題】持病薬の対応</p> <p>【提言】災害時混乱の中、持病薬が入手できなかった事例がアップされている。医師会などと協議する必要がある。</p>	<p>【対策】</p> <p>①日本の避難所は命を守ること、安全が第一で環境は次であった。東日本大震災で感染拡大（インフルエンザ）をうけ、感染症との複合災害の備えをするようになった。従来の避難所でよいのか。一度棚卸をして見直す（場所・数）</p>	<p>①【課題】避難誘導體制の整備</p> <p>【対策】第一避難所最終避難所の周知</p>	<p>【課題・対策】自主防災組織の判断で決める。</p>
						<p>②災害時の目安となる避難場所にパネル等を掲示。○×の適不適マーク（洪水、高潮、津波、土石流、がけ崩れ、地すべり、大規模火災）</p>		
						<p>③災害前、災害時に必要な防災・減災の為の情報として避難誘導する矢印を電柱や路面に表示は必要。（災害を学習・啓発する。避難場所を知る。場所に誘導する）</p>		

テーマ4「中山間地における安全・安心対策」の課題と対策

	川上委員	柳楽委員	野藤委員	上野委員	飛野委員	布施副委員長	永見委員	田畑委員長
(4) 落石防止、カーブミラー、河川や砂防ダムの土砂等の撤去	①【課題】安全安心パトロール 【提言】・現在実施されている記録の公開 ・パトロール機会の増加（班編成の増、土木経験者の活用）	【課題】落石防止やカーブミラーについては道路パトロールが実施されているが、見落としもあるように感じる。 【対策】道路パトロールの強化と、住民との連携も必要である。	【課題】落石危険個所の危険レベルの見える化 【対策】表示の工夫等	【対策】 ・まちづくりセンター・自主防災組織を通じて場所の状況把握を行う。 ・近年イノシシにより斜面で急に石が現れる。地域の方の連絡、道路パトロールに力を入れても山の中までは限界がある。まちづくりセンターを通じて住民と連携した取組を市が進める体制。	①【課題】落石防止対策 【提言】山間地の道路面落石は一向に減らない。斜面整備が進まない上、樹木の根張りやイノシシなどの獣害に起因する落石は危険だ。特に山間部の道路はえん曲していて車で走行時、落石の発見が遅れる。目視点検もやむないが、常時発生している箇所は実地調査をすべきだ。	【対策】 ①カーブミラーのメンテナンス（台帳でのチェック、必要に応じ清掃等の費用を出す）		
	いずれにしてもパトロールの活用が必要と考える。特に道路パトロールを安全安心パトロールとして再構築し、横断的な活動が可能とする必要がある。加えて、パトロール班へは土木経験者・水道工事経験者を加えることにより、ライフラインの安全安心を強化できる。			・高齢者にとってカーブミラーに頼るのは危険、運転手にこの先危険箇所があるなど知らせる工夫を・ ・高齢化により河川の草刈りは大変な負担、堆積した土砂除去要望してもなかなかかなわない市として県に力強く要望して欲しい。	②【課題】河川の土砂撤去 【提言】河川の土砂が堆積して、農業用水の頭取口が機能しない箇所が沢山ある。一度大雨が降ると頭取口付近の開水路に土砂が堆積してしまう。復旧は手作業となるため労力は甚大だ。常時発生箇所は順次土砂撤去をすべきだ。	【対策】 ②土砂等の撤去は、国県事業で令和2～6年度(5年間)事業費年間900億円(R2)5年見込み：4,900億円の緊急凌濁推進事業費を施局的に利用することを働きかける。		
	また、横断的な活動として再構築できるのであれば、福祉関係者の同乗機会を設け、高齢者・独居者の見守りの機会を求めたい。							